

## 東北広域国際交流拠点みやぎ構想の概要

東北広域国際交流拠点みやぎ構想は、東北全体の発展を展望しつつ、宮城県の恵まれた自然・立地条件等を生かし、各県との連携を図りながら、東北で唯一の特定重要港湾である「仙台塩釜港」及び東北の拠点空港である「仙台空港」のゲートウェイ機能の一層の充実を図ることで、アジア・太平洋地域を中心として世界に開かれた国際交流拠点地域を形成し、多極分散型国土の形成の促進に寄与することを目的とするものである。

( 1 ) 構想名 東北広域国際交流拠点みやぎ構想

( 2 ) 対象地域 宮城県 仙台塩釜港(仙台港区)地区(仙台市(宮城野区)、多賀城市、七ヶ浜町)  
仙台空港地区(名取市、岩沼市)

( 3 ) 面積 97,724 ha

( 4 ) 開発整備の方針

当振興拠点地域は、東北地方の中核都市「仙台市」を含む4市1町により構成され、北米及びアジア各地と国際定期航路で結ばれる国際ゲートウェイ港湾としての機能を有する東北地方唯一の特定重要港湾「仙台塩釜港」が北部に、南部には北京・上海・ソウル等、アジアを中心に国際定期便が就航し、国際線利用客の6割が県外利用客で占められる空のゲートウェイ機能を担う「仙台空港」が位置し、さらに、陸上交通の面でも、新幹線や高規格幹線道路の整備により拠点性が高まっており、当地域は、まさに東北地方の陸・海・空の交流拠点となっている。

当地域を中心として、東北各県とも連携した国際観光の一層の推進や海外へのポートセールス及びエアポートセールスの強化等を図るとともに、貿易関連施設の整備や空港等へのアクセス機能の充実を促進するなど、東北地方のゲートウェイ機能の一層の充実を図ることで、アジア・太平洋地域を中心として世界に開かれた「東北広域国際交流拠点みやぎ」を形成していく。